

令和元年度 文京区立小日向台町小学校 授業改善推進プラン

国 語

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉（長音・促音・拗音・拗長音・撥音など）を正しく読み書きすることに個人差がある。</li> <li>相手を意識して聞いたり、声の大きさに気を付けて話したりすることに課題がある。</li> <li>句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章を書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確に読み書きすることができるよう繰り返し指導する必要がある。</li> <li>相手を見て、最後まで話を聞く態度やその場に合った声の大きさと話す力を育てる必要がある。</li> <li>文章の書き方の基本形を身に付け、表現力を高めることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き方の教材（MIMなど）を使用し、定着できるようにする。また音読カードを活用し、正確に文字を読む力の向上を図る。</li> <li>「聞き方・話し方あいうえお」を常時掲示し、基本を意識させる。また、朝や帰りの会でのスピーチなど、話す・聞く場面を日常化し、話す・聞く力を高める。</li> <li>原稿用紙の使い方や、書くときの基本ルールが身に付くように、視写を取り入れたり、正しくない文章を正しく書き直したりする学習を取り入れる。</li> </ul>
二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文、説明文ともに、文章を正しく読み取る力に個人差がある。</li> <li>相手を意識して「話す」こと、大事なことを落とさないようにしながら「聞く」ことに課題がある。</li> <li>事柄の順序に沿って文章やつながりのある文章を書くこと、句読点、かぎの使い方を理解し、適切に使うことに課題がある。</li> <li>漢字や片仮名の読み書きの定着に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄の順序や大事だと思う言葉に着目し、根拠をもとに想像を広げながら読む力を育てる必要がある。</li> <li>事柄の順序に気を付けながら、自分の気持ちや考えを話したり、相手の話の内容に興味を示しながら最後まで聞いたりする力を育てる必要がある。</li> <li>順序の構成を考えてから書くこと、順番を表す言葉を入れて文と文をつなぐこと、句読点、かぎの使い方の基本形を身に付けていくことが必要である。</li> <li>書き順や字形に気を付けて正しく書くことについて繰り返し指導することが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄の順序に沿って、文章の中の大事な言葉や場面の様子、登場人物の行動などにサイドラインを引いたり、書き抜いたり、想像を広げたりしながら、読み取りを深めていく。</li> <li>「話し方」「聞き方」のポイントを指導したりよいところを認めたりして、日常的に話す聞く機会を増やして慣れるようにする。また、朝の会などで、スピーチをさせたり、質問に答えさせたりする活動を取り入れ、「聞く」「話す」力をつけていく。</li> <li>はじめ・中・終わりの順序を意識してメモを作ってから文章にするなど、段階的に指導する。順序を表す言葉を使って文章を書くことに慣れるよう、日常的に取り入れる。句読点、かぎの使い方など、繰り返し練習する。</li> <li>学習ノートやドリルで繰り返し丁寧に練習し、正しく定着できるように促す。また、必要に応じて復習を行い、定着を図る。</li> </ul>
三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じて、話の中心に気を付けて話したり、聞いたりすることに課題がある。</li> <li>文章を書くことに苦手意識がある児童が多い。</li> <li>漢字を正確に読んだり書いたりする力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的を意識し、話の中心に気を付けて話す・聞く力を付ける指導が必要である。</li> <li>相手や目的を意識し、文章を書けるようにする指導が必要である。</li> <li>学習した漢字を繰り返し練習する時間を確保することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すときは、声の大きさ、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に気を付けて話すことができるように指導する。聞くときは、話の中心や大事な言葉に気を付けて聞くように指導する。話し終わった後に感想や質問を述べる活動を入れ、定着を図る。</li> <li>まず文章メモを作ってから、安心して下書き、清書に取り組めるようにする。</li> <li>新出漢字を学習する際に声に出して読む。熟語、文章中での使い方や書き順を丁寧に指導する。また、テスト前に家庭学習に取り組めるよう課題を出して定着を図る。</li> </ul>

<p>四 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情、場面の様子を想像しながら読むことに課題がある。</li> <li>・説明文の中心を意識しながら、読むことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に置き換えながら考えたり文章の言葉一つ一つに着目したりして読むことができる指導が必要である。</li> <li>・要旨と要点を意識させて中心をとらえ、読み取らせる指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情や情景を想像させるために、言葉一つ一つに着目させる。また、指示語が示す内容が読み取ることができるように確認していく。</li> <li>・大切なところにサイドラインを引かせたり、要点をまとめたりして、形式段落ごとに区別できるような学習をして意識させる。</li> </ul>
<p>五 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書くことに課題がある。</li> <li>・説明文・物語文の内容や要旨をとらえながら読み取る学習に課題がある。</li> <li>・漢字学習の定着までに時間がかかる児童や、既習漢字の活用が不十分な児童が多く、手立てが必要である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を分かりやすく伝えるために、相手や目的を意識して書くための力を付ける指導が大切である。</li> <li>・文章の内容を的確におさえて要旨をとらえ、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、読む力を付けるための指導が必要である。</li> <li>・学習した漢字を意識して使うように習慣付ける指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が書きたいと思える題材を工夫する。起承転結や始め・中・終わりなどの構成を意識させる。冒頭部や終結部の書き方を工夫するように課題や日記の良い書き方を紹介するなど表現方法を広げる指導をしていく。</li> <li>・筆者の思いや考えが分かる言葉や文章にサイドラインを引き、読みの手掛かりとする。普段から文章に親しむために、読書活動や音読活動を家庭とも連携して進めていく。</li> <li>・朝学習の時間や家庭学習を使い、漢字の学習ノートに練習し、新出漢字の様々な熟語に触れ、活用能力を伸ばす。日記や普段の書く学習でも既習漢字を使うように指導する。</li> </ul>
<p>六 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書くことに課題がある。</li> <li>・説明文・物語文の内容や要旨をとらえながら読み取る学習に課題がある。</li> <li>・既習漢字を習得し、活用するまでには至らない児童への手立てが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を分かりやすく伝えるために、相手や目的を意識して書くための力を付ける指導が大切である。</li> <li>・文章の内容を的確におさえて要旨をとらえ、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、読む力を付けるための指導が必要である。</li> <li>・学習した漢字を意識して使うように習慣付ける指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起承転結や始め・中・終わりなどの構成を意識させる。冒頭部や終結部の書き方を工夫するように課題や日記の良い書き方を紹介するなど表現方法を広げる指導をしていく。</li> <li>・筆者の思いや考えが分かる言葉や文章にサイドラインを引き、読みの手掛かりとする。普段から文章に親しむために、読書活動や音読活動を家庭とも連携して進めていく。</li> <li>・小テストの裏に既習漢字を使って文章を作る学習を取り入れるなど、日常的に漢字を活用する学習を継続的に行い、習慣化できるようにする。</li> </ul>

# 社 会

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料にある地図やグラフ等を読み取る学習に課題がある。</li> <li>・区の土地利用の様子を地形的な条件や社会的な条件と関連づけて考えることに課題がある。</li> <li>・新聞やポスターにまとめる際の情報活用の力が身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図やグラフを見て特徴を捉えさせる指導が必要である。</li> <li>・地図や資料を有効に活用し、調べたりまとめたりする中で事象や人々の相互を関係づけて指導することが大切である。</li> <li>・どんな情報が必要かを考え、調べ選択することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方位は身体を使って確認させたり、地図やグラフは指さしや印を付けたりしながら1つずつ確認して定着を図る。地図記号カードを使って繰り返し学習する。</li> <li>・実際に見たり聞いたりしたことから学習の課題を立てていけるよう、話し合いの時間を十分に取る。社会科の学習が実生活と結びついていることが感じられるよう、地域の学習環境や教材を生かし、学習計画を立てる。</li> <li>・ICT支援員、図書館司書と連携し、情報活用能力の育成を図る。</li> </ul>
四 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを生活に関連付けて考える力に課題がある。</li> <li>・グラフや資料の読み取りや活用する力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的事象に関心をもち、学習したことを社会生活に生かそうとする社会的な見方・考え方を育てる指導が大切である。</li> <li>・グラフや資料を読み取る力を付ける指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な資料を提示したり、体験や社会科見学の機会を設けたりし、生活と結びつけることができるようにする。分かったことを文章でまとめたり、資料を用いて説明したり話し合ったりする活動を取り入れ、よりよい社会について考える指導を充実させる。</li> <li>・グラフや資料の見方・考え方を捉えられるよう、読み取らせる指導を充実させる。また、様々な資料の中から自分に必要な情報を収集、選択・判断・活用・発表する力を身に付けられる指導の工夫を行う。</li> </ul>
五 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土を地図や地球儀、資料などを活用して調べる学習に課題がある。</li> <li>・資料を読み取ったり、資料を活用したりして、自分の考えや意見をもち、学習したことをまとめる力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名称や位置を調べるだけでなく、世界の中における我が国の国土の様子を捉え、産業に関する学習などにおいて活用できるようにする指導が大切である。</li> <li>・資料を適切に活用し、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、課題を把握して選択判断する力、それを基に議論する力を養う指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料の活用の仕方を指導し、繰り返し学習する。また、産業に関する学習において、各種資料を活用できるように、学習の問題を追究・解決する活動や見方・考え方を働かせ表現させる活動を設定する。</li> <li>・見方・考え方を働かせて、気付いたことや考察をノートに書かせる。また、社会に見られる課題を把握し、よりよい社会を考え学習する活動を設定することで日常と関連させて、情報を適切に調べまとめる力を指導する。また、自主的な調べ学習を取り入れ、まとめた事を発表する授業を展開する。</li> </ul>
六 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に合わせて資料を効果的に活用する力に課題がある。</li> <li>・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に適した方法で調べる力やまとめる力を身に付ける指導が大切である。</li> <li>・社会的事象が起こった背景やその後の変化等について、考えさせる指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に合わせた効果的な資料の活用方法を指導するとともに、その資料を用いて自分が調べたことを工夫して分かりやすくまとめ、発表する授業を展開する。</li> <li>・社会的事象の歴史的背景やその後の変化等を想像し、考えたことをもとに話し合う活動などを積極的に取り入れ、様々な視点を身に付け、多角的に考えられるよう指導をしていく。</li> </ul>

# 算 数

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減法の中の求差の場合の理解に課題がある。</li> <li>・20までの数の構成を数字で表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求差の場面も減法であることを理解できる指導が大切である。</li> <li>・20までの数について、10のまとまりといくつという数の構成をブロックや数字など様々に表現し理解させる指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック操作を通して、求残や求補と同じであることを理解させる。「ちがいはいくつ」という場面を普段の生活の中でも見つけ、式に表せるようにする。</li> <li>・ブロックや数直線を活用しながら、「10のまとまりと端数がいくつ」とみて考えられるようにする。</li> </ul>
二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算などの基礎学力において課題がある。</li> <li>・文章問題の題意の理解し解決することに課題がある。</li> <li>・物差しを使って直線を引くことや、長さを正確に読むことに課題がある。</li> <li>・時間の学習では、時、分の関係の理解に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容を確認しながら、数の仕組みや加減の計算が身に付く指導が大切である。</li> <li>・文章を読み取る力、立式の根拠を説明する力が身に付く指導が大切である。</li> <li>・物差しの正しい使い方が身に付く指導が大切である。</li> <li>・具体的な生活場面と結びつけながら、時間や時刻の理解ができるようにする指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシックドリルを活用し、習熟に応じた個別指導を取り入れる。</li> <li>・半具体物操作を取り入れてイメージをつくり理解を深める。</li> <li>・問題文を読み、分かっていること、求めることに着目させ、問題場面をイメージして立式できるようにする。</li> <li>・自分の考えを文や絵、図で表現したり、根拠となる考えを説明したりする活動を取り入れる。</li> <li>・物差しの押さえ方や鉛筆の使い方などを繰り返し指導する。</li> <li>・物差しで直線を引いたり、長さを測ったりする活動を十分に取り入れる。</li> <li>・実際の生活場面で、時刻や時間を読み取る活動を取り入れる。</li> <li>・時計の模型を使い、実際に動かしながら、針の動きや時間の移り変わりを指導していく。</li> </ul>
三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量感や数の見通しに課題がある。</li> <li>・時こくと時間を求める問題に課題がある。</li> <li>・文章問題の題意の理解し解決することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数的な活動を積極的に取り入れ、量感や数の見通しが身に付く指導が大切である。</li> <li>・具体物を用いてイメージを大切に作る指導が大切である。</li> <li>・問題で何を問われているかを文章からしっかりと捉える力を身に付ける指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシックドリルの有効な活用の仕方を考え、習熟を図る。</li> <li>・思考力を高めるために、半具体物の使用や電子黒板の有効的な活用を考えながら授業をする。</li> <li>・文章問題では、題意を把握するために、問題を音読させ、「分かっていること」「求めること」を明らかにして問題を解く習慣を身に付けさせる。その際、既習の学習事項を生かした考え方を示したり、題意に即したテープ図の書き方を指導したりしながら、基礎的な知識や技能を身に付けさせる。</li> </ul>

四年	<ul style="list-style-type: none"> <li>分度器、三角定規、コンパスを用いて、四角形をかく学習に課題がある。</li> <li>文章問題の題意の理解し解決することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の性質や構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、かき方を確認し、正確にかける指導が大切である。</li> <li>問題で何を問われているかを文章からしっかりと捉える力を身に付ける指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の定義を理解できるようにし、性質や構成する要素及びそれらの位置関係を理解してかくことができるように指導する。</li> <li>かく手順を示し、必要な道具を正確に使って、順序良くかくことができるように指導する。</li> <li>図や数直線を提示し、「分かっていること」「求めること」を捉えるために、手がかりになる言葉を押さえるようにする。</li> <li>友達の考えを知り、自分の理解を深め、集団で考えを交流する機会をつくる。</li> <li>東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。</li> </ul>
五年	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算や図形などの基礎学力について個人差がある。</li> <li>問題解決をする際、自分の考えを表現したり、相手の表現から理解したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導を進め、児童の理解や習熟の程度、興味・関心に合った学習の中で、定着を図る指導が大切である。</li> <li>考えを伝えるには論理的であること、場面によって表現を工夫する指導が大切である。これらを年間通して指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導の中で、児童の理解や習熟の程度、興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、習熟度に合わせて基礎的な問題や応用問題を選び指導する。また、朝学習、ユニットの時間、家庭学習を活用し、基礎学力の定着と習熟を図っていく。</li> <li>東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。</li> <li>言葉、図、式などを様々な考え方を授業で取り上げ、それらの表現のつながりや場面による表現のよさについて指導する。</li> </ul>
六年	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算や図形などの基礎学力について課題がある。問題解決にかかる時間に個人差がある。</li> <li>文章問題の題意の理解し解決することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別学習を進め、個に応じた指導を充実させ、基礎基本の定着を図る指導が大切である。</li> <li>問題で何を問われているかを文章からしっかりと捉える指導が必要である。また、問題解決の過程を理解できるように指導することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導の中で、児童の理解や習熟の程度、興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、習熟度に応じて基礎的・応用的な問題に慣れさせ、反復練習をする。ユニットの時間等を活用して、個別指導を充実させていく。</li> <li>東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。</li> <li>問題把握、自力解決、集団解決において言葉・図の表現を豊かにして理解や共有することを大切にする。</li> <li>問題解決的な学習に取り組む中で、友達の考えを知り、自分の考えを深め、習熟させるようにする。</li> </ul>

# 理 科

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物や昆虫の成長のきまりや体のつくりについて成長過程を比較しながら理解する事に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近に見られる植物や昆虫の様子、体のつくりに興味・関心をもたせることや、成長のきまりと体のつくりなどについての見方や考え方を養うことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昆虫と環境とのかかわりをとらえさせるために、自然園を活用したり、実際に育てたりする活動を通して、事象に対する興味・関心を高める。</li> <li>差異点や共通点を基に問題を見出すことができるようにする。</li> </ul>
四 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物や現象を、季節、気温、時間などに関係付けながら考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な動植物の観察を多く取り入れることで体験的に指導することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想することができるようにする。</li> <li>予想や仮説を発想してから観察に取り組みせることによって環境と関連付けてとらえることができるようにする。</li> <li>体験学習を重視すると共に、映像教材や図書資料を取り入れ、思考を深めていく。</li> </ul>
五 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件を整理して観察・実験方法を論理的に考えることに課題がある。</li> <li>知識が先行してしまい、実感を伴った理解をすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型の授業を行うことが大切である。</li> <li>実際に見る、実験する、実感することを大切に指導することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「問題を設定する→予想・仮説を設定する→調べる方法を考える→結果の見通しを把握する→観察・実験する→結果を整理する→考察する→結論を導く」を年間通して行っていく。</li> <li>予想や仮説を基に、条件を整理して解決方法を考えさせる。</li> <li>自然に親しむ活動や体験活動、製作活動を各単元の目標に合わせて積極的に取り入れる。</li> </ul>
六 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象の変化や働きをその要因や規則性、関係に着目して追究する課題に対して、自らの生活経験や既習の知識と結び付けて予想したり、考察したりする力に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験や観察などを充実させ、問題解決を図る学習を積み重ね、既習の知識を活用して結果を考察することで、科学的な見方や考え方の育成を図る指導が大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果を予想や仮説と比較・検討すること、他の児童の考察を比較・検討することで、多面的に考え、より妥当な考えを作り出せるようにする。</li> <li>自然園等を活用し、自然に親しむ活動や体験活動、制作活動を導入時や活用の場面等で積極的に取り入れる。</li> </ul>

## 生 活

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を楽しむことはできるが、自分の思いや願い、気付きをもつことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や生き物、身近な人々と関わる活動を通して思いや願い、気付きがもてるようにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のめあてを示し、校外活動や動植物と関わる体験的活動を多く取り入れ、児童の行動や吹き、記録から児童の気付きをとらえ、全体に広め認めることで、気付く力を高めていく。</li> <li>・観察の際は、色・形・大きさ・数・手触り・匂いなど、見る視点を明確にし、変化を見付けることを意識させる。</li> </ul>
二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や動物の観察や身近な人々と直接関わる活動を通して気付いたことや思ったことを、自分の言葉で、具体的に表したり振り返ったりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や動物、身近な人々と直接関わる活動を通して、気付いたことや思ったことを表現する力や振り返る力を向上させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法を例示したり書くポイントに気付いている児童の文を紹介したりして、書き方を示す。</li> <li>・観察しながら、身の回りの様子や変化等に着目できるように見るポイントを伝えていく。</li> <li>・学習カードを取り入れ、全体で共有し、表現力や振り返る力を伸ばす活動を取り入れる。</li> </ul>

## 音 楽

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の楽器の音や伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて演奏しようとすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時、必ず「音楽を聴く」時間を設け、「聴く」活動の習慣化を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まねっこ」ゲームに楽器を取り入れながらリズム遊びにつなげ、楽しみながら楽器の「音色」や「リズム」を聴いて繰り返す活動を積み重ねていく。</li> </ul>
二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変意欲的であるが、一生懸命表現するあまり、やや地声になり、少々乱暴な歌唱表現になることがある。</li> <li>・鍵盤ハーモニカの演奏では、指使いに気を付けながら演奏できるようになってきたが、まだ思うように指が動かず、指使いを意識して演奏することが苦手な児童も少なくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の歌声に気を付け、どのように歌うと「きれいな歌声」になるのか、歌声や楽器の「音色」に対する意識を高めていく。</li> <li>・鍵盤ハーモニカの演奏には、指使いを工夫することで、曲の流れや曲想が変わることを感じ取り、指使いに対する意識を高めていき、なめらかな演奏が身に付くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しい歌声に接したり、楽曲の気分を感じ取って歌い方を工夫したりする過程の中で、丁寧な歌い方、きれいな発声や発音に気付くようにする。また、きれいな発声や発音のために、歌詞を読むことにも取り組んでいく。</li> <li>・朝の会や音楽の時間に、友達と歌声を聴き合い、自分の歌声を客観的に聴く活動を取り入れ、自分の歌声に注意しながら歌う習慣を身に付ける。</li> <li>・鍵盤ハーモニカの練習時には、階名唱と共に指番号唱も取り入れ、常に指使いを意識しながら指導する。</li> </ul>

<p>三 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて取り組んだリコーダーの学習に大変意欲的である。しかし、運指や息の強さ、タンギングなどの基本的奏法の理解にはまだ課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焦らず時間をかけ、できるだけ個別指導の時間を多く設けると共に、学習意欲を損なわないような指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が範例を示すだけではなく、運指、息の強さやタンギングについては、児童のよい範例を紹介し、友達のよいところを認め合いながら学習意欲を高めていく。</li> <li>・スモールステップで学習を進め、教師の言葉かけの工夫や楽曲教材の開発や工夫で更に学習意欲を高める。</li> </ul>
<p>四 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら表現活動をする児童の姿が多く見られる。しかし、歌唱においては地声になったり、リコーダーでは音が強すぎたり少々乱暴な表現になることが課題である。</li> <li>・鑑賞に関しては、楽曲から感じ取ったことを文字や言葉で表現することが苦手な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声法や楽器の基本的奏法を学び、響きのある歌声や音色について理解を深める。また、響きのある歌声や音色について考え、表現を工夫することにつなげる。</li> <li>・音楽の諸要素と関連させた聴くポイントを明確にもたせてから、聴く活動に取り組む。また、感じ取ったことを発表し合い、友達と意見を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい発声法や奏法が身に付くように、簡単な演奏から取り組ませる。リコーダーでは、指の押さえ方や息の強さに重点を置いて指導をする。音源や範奏を活用したり、よい表現をしている児童の演奏を聴いたりして、響きのある歌声や音色の美しさを味わわせ、表現の工夫に対する意識を高める。</li> <li>・聴くポイントを絞り、漠然と聴くことのないような授業展開やワークシート等を工夫する。ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達と意見を交流する中で、考え方や言語活動を広げていく。</li> </ul>
<p>五 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する興味関心は高く意欲的であり、響きのある声で歌ったり、リコーダーを演奏したりする様子が見られる。しかし、楽曲にふさわしい歌声や音色で表現することに課題がある。</li> <li>・鑑賞に関しては、楽曲の構造や特徴を分析的に聴くことができる。しかし、楽曲から感じ取ったことを文字や言葉で表現することが苦手な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声法や楽器の基本的奏法を学び、歌声や音色について理解を深める。また、楽曲にふさわしい歌声や音色について考え、表現の工夫につなげていく。</li> <li>・音楽の諸要素と関連させた聴くポイントを明確にもたせてから、聴く活動に取り組む。また、感じ取ったことを発表し合い、友達と意見を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい発声法や奏法が身に付くように、簡単な演奏から取り組ませていく。リコーダーでは、フレーズに重点を置いて指導をする。楽曲の曲想や、曲想と歌詞の内容の関わりについて、根拠をもって考えたり、意見を交流したりさせ、思いや意図をもって表現活動ができるようにする。また、友達と演奏を聴き合うことで、楽曲にふさわしい歌声や音色に対する意識を高めていく。</li> <li>・聴くポイントを絞り、漠然と聴くことのないような授業展開やワークシート等を工夫する。ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達と意見を交流する中で、考え方や言語活動を広げていく。</li> </ul>

<p>六 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現力が豊かであり、歌唱活動では楽曲にあった歌声で表現する様子も見られる。しかし、口を大きく開けて歌う児童は少なく、表現に対する意識には個人差がある。器楽に関しては、楽しみながら演奏をする様子が見られるが、楽曲にふさわしい音色で表現することに課題がある。</li> <li>・鑑賞に関しては、楽曲の構造や特徴を分析的に聴くことができる。しかし、楽曲から感じ取ったことを文字や言葉で表現することが苦手な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、声を合わせて歌うことの楽しさを体験できるようにする。また、基本的な発声法を学び、自信をもって表現できるようにする。器楽では、基本的な奏法を学び、音色について理解を深める。その楽曲にあった音色を考え、表現の工夫につなげる。</li> <li>・音楽の諸要素と関連させた聴くポイントを明確にもたせてから、聴く活動に取り組む。また、感じ取ったことを発表し合い、友達と意見を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい発声法や奏法が身に付くように、簡単な演奏から取り組ませていく。声を合わせる楽しさを味わえるよう、和音の響きやパートの役割を感じられる教材を取り入れる。また、のびのびと歌うことができるような雰囲気づくりや、授業展開を工夫する。演奏家の音源や映像などを活用し、楽曲にふさわしい表現で演奏することに対する意識を高める。また、教師の範奏や、よい表現をしている児童の演奏を聴かせることで、楽曲にふさわしい表現をするための奏法の工夫について考えさせる。</li> <li>・聴くポイントを絞り、漠然と聴くことのないような授業展開やワークシート等を工夫する。ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達と意見を交流する中で、考え方や言語活動を広げていく。</li> </ul>
----------------	---	--	---

図 工

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
<p>一 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくのびのびと自分の思いを作品に表すことができる児童が多いが、さらに一工夫したり、発想を広げたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想を広げるために時間を確保したり、表現の基本的な技能を身に付けさせたりすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な技能を身に付けられるよう、はさみやクレヨン・パス等の様々な使い方を教え表現の幅を広げる。</li> <li>・友達の表現のよさを感じたり、友達と一緒に発想を広げられたりするような学習環境の工夫をする。</li> </ul>
<p>二 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくのびのびと自分の思いを作品に表すことができる児童が多いが、発想や技術面では個人差がある。発想を広げ、道具や材料を上手に扱えるよう指導することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく意欲的に取り組む姿勢を持続させながら、豊かな発想を生かし上手に道具や材料を使って表現できる指導をしていくことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が道具の基本的な扱い方を毎時間丁寧に示す。また授業の合間に児童の参考となる作り方や発想を紹介し、よさを認め合い広めていく。</li> <li>・個人差がでないようスモールステップで学習を進め、一人一人に対する教師の言葉かけを丁寧にを行う。</li> </ul>
<p>三 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な材料を使って自分たちの作品を楽しく表現することに大変意欲的である。しかし技術面では、道具の使い方を正しく身に付け表現することに個人差がある。</li> <li>・友達の作品を見たり、感じたことを発表したりすることに興味をもって取り組むことに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の発想を生かすことができるよう道具の基本的な扱い方や材料の工夫から表現できる指導を行うことが必要である。</li> <li>・作品を見て友達と感じたことを聞いたり話したりしながら、形や色、表し方の面白さに気付くことができる場面を設定することが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に各題材で材料や道具を扱い、以前に扱ったものについても、繰り返し取り扱い応用できる活動内容にする。</li> <li>・必要な技術は全体に向けてポイントを絞った指導をする。また、個別に教師の言葉かけを行い、全員がスムーズに作業を進められるようにする。</li> <li>・自分や友達の作品の良さを見つけ感じたことを伝え合う機会を増やし、よさを認め合い広めていく。また児童の意見を肯定的に認める言葉かけを増やし意欲を高める。</li> </ul>

四年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくのびのびと自分の思いを作品に表すことができる児童が多いが、発想に行き詰まったり、思い通りに表せなかったりする児童への手立てや支援が課題である。</li> <li>・自分や友達作品から感じたことを共有する鑑賞活動の取り組むことができている。美術作品のよさや面白さを感じる力を身に付けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な材料に触れ、手を働かせて使ったり、表し方を考えたりして表現できるような活動の場面の工夫や、学年に応じた材料や用具を適切に扱うよう題材を設定することが大切である。</li> <li>・自分や友達作品だけでなく、身近な美術作品のよさを感じ取る鑑賞活動から、伝える場面を設定することが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な材料や扱いやすい用具を使う活動から、表し方を考えて表現する活動場面を計画的に取り入れる。また、扱う材料や道具に応じた技術を身に付けられるよう、全体に向けてポイントを絞った指導をする。また、個別に教師の言葉かけを行い、全員がスムーズに作業を進められるようにする。</li> <li>・鑑賞活動と表現活動との関連を図りながら、自分たちの作品や身近な美術作品のよさや面白さについて話し合い、子供の発言やつぶやきを大切に全体に共有していく。</li> </ul>
五年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規律を守って授業に参加することができている。また、様々な材料を使って自分が表したいものを工夫して表現する力が身に付いている。課題に対して一生懸命向き合う気持ちが見られるが、自分の表現したい思いに技能が追い付かず、完成まで計画的に作業を進めることに課題がある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた材料や用具を、題材に合わせて適切に扱うことができるようにすることが大切である。また計画的に授業の見通しをもてるよう作業の手順を確認できる環境づくりが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて題材に出会う感動を大切に、「つくりたい」という気持ちが完成まで継続できるよう制作過程の手順を示し見通しをもたせる。扱う材料や道具に応じた技術を身に付けられるよう、全体に向けてポイントを絞った指導をする。また、個別に教師の言葉かけを行い、全員がスムーズに作業を進められるようにする。授業の流れの見通しがもてる板書や、常に作業手順を視覚的に確認できる掲示物を提示する。</li> </ul>
六年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくのびのびと活動することができている。全員が作業に集中し、落ち着いた学習態度で授業に取り組むことや、個に応じた支援に課題のある児童が見られる。</li> <li>・材料の特徴や構成の美しさなどを考えながら、表し方を構想し、工夫して表すことに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図工室のルール of 意義を理解し落ち着いて制作に集中できる環境づくりが必要である。</li> <li>・様々な作品から材料の特徴や構成の美しさを感じ取り、自身の制作に生かせる経験を積み重ねる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最高学年としての取り組みを意識できるよう、日頃より言葉をかけていく。図工室のルールの意義を繰り返し確認する。また子供たちが集中して「つくりたい」と思える導入から完成まで達成感を感じられる工夫を行う。また自画像制作に向け、描画材を適切に扱う技能も伸ばしていく。</li> <li>・美術書やICT機器を活用し様々な作品に触れたり、話し合ったりする機会を通し材料の特徴、構成の美しさ、用途などを考える内容にする。</li> </ul>

# 家 庭

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
五 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて習う家庭科に、前向きに取り組む児童が多く裁縫や調理実習への関心も高いが、家庭生活での経験によって技能面で個人差がみられる。</li> <li>・実習では、教え合ったり助け合ったりする姿が多くみられるが、一人一人の技能の定着を図る工夫が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住に関する基本的な知識や技能を身に付け、豊かで楽しい家庭生活を送ろうとする態度を育てることを大切にする。</li> <li>・技能を身に付けられる実習の場を大切に、一人一人が主体的に取り組む、達成感を味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁縫や調理実習などを通して、達成感や充実感が味わえるようなめあてや教材を工夫する。</li> <li>・主体的に取り組むために、絵やカード、作品の見本、電子黒板などを活用して作業の手順を明確にする。</li> <li>・調理実習では、一人一人に役割を意識させ、基本的な技能が身に付けられるようにする。</li> <li>・助け合ったり振り返ったりする時間を作り、互いの良さを感じ合いながら全体の力を高めていけるように工夫する。</li> </ul>
六 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に家庭科への関心は高く、裁縫や調理実習に、前向きに取り組む児童が多いが、学習した知識や技能を実際の生活に活かす力は十分とはいえない。</li> <li>・授業への取り組み方に、少しずつ個人差が出てきているので、興味や関心をもたせる手立ての工夫が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい家庭生活を送るために、衣食住に関する知識や理解を深め、自分で実践しようとする態度を育てることを大切にする。</li> <li>・技能の定着を図るために一人一人が主体的に取り組める活動を工夫することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を明確にし、一人一人が達成感を味わえるような活動を工夫することで、実際の家庭生活に活かしたいと思えるようにする。</li> <li>・実習では、カードや作品の見本などを使って手順や役割を明確にし、主体的に取り組めるようにする。</li> <li>・技能面で差の出やすい活動は、個別に支援をすると同時に、子ども同士で教え合う機会を作り、問題解決が図れるように工夫する。</li> </ul>

令和元年度 文京区立小日向台町小学校 授業改善推進プラン

体 育

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
一 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄棒や雲梯などぶら下がったり逆さになったりする感覚等の経験が少ない傾向にあることが課題である。</li> <li>勝つことにこだわる児童が多く、きまりやルールを守れなかったり、安全に気を付けながら素早く行動したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定施設を使っているいろいろな運動遊びに親しみ、運動の楽しさが感じられるようにすることが大切である。</li> <li>ルールを守ることや勝敗を受け入れることの大切さを理解させる必要がある。</li> <li>素早く行動することの必要性や良さを学ぶ必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いきり体を動かしたいと思える場の工夫や様々な動きを紹介して自ら挑戦する機会を設ける。</li> <li>ルールを共有する時間を設けたり、理解を確認しながら運動に取り組んだりすることで、基本的な集団行動が身に付くようにする。</li> <li>友達と一緒に運動することの楽しさに触れることができている児童を称賛していく。</li> </ul>
二 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>握投力に課題がある児童が多い。</li> <li>ルールを守り、勝敗を受け入れる態度に課題がある。</li> <li>運動の仕方を工夫して取り組むことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びを通して体の使い方を覚え、運動能力が身に付くよう指導していく必要がある。</li> <li>ルールを守ってゲームに取り組む、勝敗を受け入れる態度を身に付ける必要がある。</li> <li>動き方の工夫とは何かについて理解させて取り組ませる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながらボールを投げる運動遊びの時間を計画的に設ける。</li> <li>よい動きのポイントを示し、めあてをもたせて運動に取り組めるようにする。</li> <li>ルールを示し、勝敗にふさわしい態度（スポーツマンシップ）が表れている児童を称賛していく。また、具体的な声かけを行い、模範となる態度は大いに称賛する。</li> <li>チームで作戦を立てたり、よい動きを紹介したりして、工夫するよさを示していく。</li> <li>教師や友達の動きのまねをし、動き方の工夫につなげることができるような言葉掛けをする。</li> </ul>
三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>投力に課題がある児童が多い。</li> <li>ボールを操作する運動に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の能力に適しためあてを決めて取り組むことが大切である。</li> <li>準備や片付けを一緒にさせ、協力して取り組む場を多く設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>投げる、捕る、(蹴る)、攻める、守るなどの動きを学習できるように工夫し指導する。</li> <li>授業の振り返りの場面で自分が頑張ったことや友達の頑張りを、技能のポイントなど、言葉を使って表現させたり、学習カードを用いたりして自己評価や相互評価を行う。また、運動に応じて、グループやチームでの活動を取り入れ、学び合いや励まし合う意識を高めていく。</li> </ul>
四 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>回転したり上体を支持したりすることに大きな差があることが課題である。</li> <li>体を巧みに操作することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マット、鉄棒、跳び箱運動の学習を通し、運動する楽しさを味わいながら、基本的な技能を身に付ける必要がある。</li> <li>様々な領域で跳ぶ運動、投げる運動などを取り入れていく指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードや掲示資料を工夫し、技能のポイントを示す。</li> <li>主体的に学習に取り組むことができるように学習の見通しをもたせる。また、自己の課題の見付け方や解決の仕方を明確に示していく。</li> <li>遠くへ跳ぶ、高く跳ぶ、連続して跳ぶ、投げるなどの運動を意図的に取り入れる。</li> <li>コーディネーショントレーニングを取り入れ、巧みな動きが身に付くように工夫する。</li> </ul>

<p>五 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを明確にもたずに運動している児童への手だてが課題である。</li> <li>・それぞれの領域での技能ポイントを把握できず、運動の特性（楽しさ）を十分に味わえない児童への手だてが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に適しためあてをもたせ、そのめあてに向けて学び合いながら活動を進めていく指導が必要である。</li> <li>・指導者が個々の児童の特性を理解し、練習の時間に技能ポイントや動き方を示し、友達同士の教え合いを活発にさせることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に運動に取り組むことができる課題を設定し、グループでの教え合いを活発にしたり運動が苦手な児童への支援をする。</li> <li>・学習カードを活用し、めあての振り返りをして、次の学習につなげることができるようにする。</li> <li>・運動がもつ楽しさを味わえるように、児童の実態に応じた場の設定や用具の工夫ができるようにする。</li> <li>・児童同士の教え合いの場を計画的に設け、互いに見合いながら技能を高め合えるようにする。</li> </ul>
<p>六 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを明確にもたずに運動している児童への手だてが課題である。</li> <li>・それぞれの領域での技能ポイントを把握できず、運動の特性（楽しさ）を十分に味わえない児童への手だてが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力に適しためあてをもたせ、そのめあてに向けて学び合いながら活動を進めていく指導が必要である。</li> <li>・指導者が個々の児童の特性を理解し、練習の時間に技能ポイントや動き方を示し、友達同士の教え合いを活発にさせることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に運動に取り組むことができる課題を設定し、グループでの教え合いを活発にしたり運動が苦手な児童への支援をする。</li> <li>・学習カードを活用し、めあての振り返りをして、次の学習につなげることができるようにする。</li> <li>・運動がもつ楽しさを味わえるように、児童の実態に応じた場の設定や用具の工夫ができるようにする。</li> <li>・児童同士の教え合いの場を計画的に設け、互いに見合いながら技能を高め合えるようにする。</li> </ul>

# 総 合

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて学ぶ学習であるため、総合的な学習の時間の学び方を身に付けるまでに時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を振り返ったり、児童の身近にある地域の環境を活用したりしながら、課題を見いだせるよう、指導計画を立てることが大切である。</li> <li>児童が学習に主体的・協働的に取り組んでいけるよう指導の工夫をすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習する事柄を通して、児童が主体的に学び続けたり、学び方の基礎を身に付けたりすることができるよう、授業の導入を工夫したり、見学やインタビュー活動等、仲間と協働して課題を解決する学習活動を積極的に取り入れる。</li> <li>教師が総合的な学習の時間の学び方(課題の設定—情報の収集—整理・分析—まとめ・表現)を理解し、年間の学習計画と総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習の基盤を作り、指導計画を立てる。</li> </ul>
四 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる力や、資料を収集する力に差があることに課題がある。</li> <li>学習課題を決めて、調べたことを自分の言葉でまとめることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集の仕方を身に付けさせ、課題解決に合った方法で調べることができるように指導していくことが必要である。</li> <li>調べたことを自分の考えや生活と結び付けて考え、まとめられるよう、考えを整理・分析したり、まとめたことを表現したりする活動を取り入れることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に関連する書物を精選し、学校や地域の図書館を有効に活用する。また、情報を収集・整理・発信する学習活動を取り入れる。</li> <li>情報収集をするためにパソコン等の基本操作を習得できるようにする。</li> <li>課題に対する考えを深めさせるために、まとめ・表現をする活動を積極的に取り入れる。各教科や総合的な時間で学んだことが生かされるよう、年間指導計画と関連付け、言語による理解が定着するよう、繰り返し指導を行う。</li> </ul>
五 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>何のために活動するのか、課題がはっきりしないまま学習が進んでしまう児童への手立てが課題である。</li> <li>体験したことを日常生活に生かすまでには至っていないことが多いことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験や社会体験、観察・実験、見学や調査など既習の学習を基に、実生活や実社会と結び付けて学習課題を見いだすことが大切である。</li> <li>体験したことを自らの生活に結び付けられるようにして、学んだことを日常に生かすことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習する事柄が児童の興味・関心が高まるものであるか、また、児童が自ら課題をもち、課題を解決するのにふさわしい探究課題であるか検討する。</li> <li>学習活動を設定する際に、実生活や実社会との結びつきを考えたり、今までに体験したことや経験したことを振り返ったりしながら自ら問いを見いだせるよう指導の工夫をする。</li> <li>体験したこと日常生活に生かせるよう、学んだことを意図的に結びつけた学習を進めていく。その際、年間指導計画と各教科、総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習になるよう計画を立てる。</li> </ul>

<p>六 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学習課題がはっきりしないまま学習が進んでしまう児童への手立てが課題である。</li> <li>・調べたり、体験したことを実際の生活に結び付けてまとめたししながら、行動することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査など、既習の学習を基に、実社会や実生活と結びつけて課題を見いだすことが大切である。</li> <li>・調べ学習では、発表する相手を意識させ、それに適した表現方法を選択してまとめることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する事柄が児童にふさわしい探究課題であるか検討し、年間指導計画と総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習となるよう学習計画を立てる。その際に、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなど、考えるための技法を活用し、自分の考えをもつことができるよう指導する。</li> <li>・探究的な学習の中で、学んでいることが実社会や実生活でどのように生かされ、生きて働く力になるか考える。社会と積極的に関わっていく態度を養うために、社会参画をしていく意識や意義を共に考える。</li> <li>・まとめ学習に入る段階で、最終的に発表する相手を決めて、目的意識をもって課題を追究させる。必要に応じて表現方法を提示し選択させるなど他教科の学習と関連付けて指導する。</li> </ul>
----------------	--	---	--

## 外国語活動

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
三 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が積極的にコミュニケーションを図れるようにするための手立てが課題である。</li> <li>・指導内容(コミュニケーション・異文化理解)のバランスの工夫が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも進んでコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。</li> <li>・本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を用いた言語活動を通して、体験的に楽しみながらコミュニケーションを図れるようにする。単元の中で段階的にめあてを設定し、歌やチャンツ、アクティビティの中で動作や交流等を取り入れて行う。学習のめあてや対話時のポイント等の振り返りを行い、次に活かせるようにする。</li> <li>・1対1の対話・グループ内での対話など、対話の機会を多く取り入れる。また、会話表現を使ってアクティビティを行うときは、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定して行う。</li> </ul>
四 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が積極的にコミュニケーションを図れるようにするための手立てが課題である。</li> <li>・指導内容(コミュニケーション・異文化理解)のバランスの工夫が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも進んでコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。</li> <li>・本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年は音声を聞くことが特に大事なので、ネイティブスピーカーの音声を聞かせ、復唱したり対話したりする機会を多く設ける。</li> <li>・英語を用いた言語活動を通して、友達やALTとともに体験的に楽しみながらコミュニケーションを図れるようにする。学習のめあてを明確にし、歌やチャンツ、アクティビティで動作や交流等を取り入れながら段階的に進める。学習のめあて等の振り返りを毎時間行い、日常や次時への意欲に活かす。</li> <li>・対話の機会を多く取り入れる。また、会話表現を使ってアクティビティを行うときは、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定して行う。</li> </ul>
五 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にコミュニケーションを図れるようにするための児童への手立てが課題である。</li> <li>・指導内容(コミュニケーション・異文化理解)のバランスの工夫と、読むことと書くことの基礎的な技能習得が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも進んでコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。</li> <li>・本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。</li> <li>・音声で十分に慣れ親しみ、簡単な語句等の表現の意味が分かり、書き写せるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を用いた言語活動を通して、体験的に楽しみながらコミュニケーションを図れるようにする。単元の中で段階的にめあてを設定し、歌やチャンツ、アクティビティの中で動作や交流等を取り入れて行う。学習のめあてや対話のポイント等の振り返りを行い、日常や次時への意欲に活かす。</li> <li>・対話や発表の機会を取り入れる。また、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定してアクティビティ等を行う。</li> <li>・簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読み、語順を意識して書く活動を取り入れる。</li> </ul>
六 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にコミュニケーションを図れるようにするための児童への手立てが課題である。</li> <li>・指導内容(コミュニケーション・異文化理解)のバランスの工夫と、読むことと書くことの基礎的な技能習得が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも進んでコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。</li> <li>・本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。</li> <li>・音声で十分に慣れ親しみ、簡単な語句等の表現の意味が分かり、書き写せるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティビティを通して、会話表現に対する関心意欲を高めて取り組む。その際に活動の意図を理解した上で取り組めるようにする。学習のめあてや対話のポイント等の振り返りを行い、日常や次時への意欲に活かせるようにする。</li> <li>・対話や発表の機会を取り入れる。また、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定してアクティビティ等を行う。</li> <li>・簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読み、語順を意識して書く活動を取り入れる。</li> </ul>

## 道徳

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
一年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良くし助け合うためにはどうしたらよいかをたくさん考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童の発言を促したり、ペアやグループでの話し合いをしたりして、多様な意見を取り上げていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良くするためには、あったか言葉をかけたり、相手の気持ちを考えたりするとよいことに気付かせる。また、自分の考えをもち発表しやすい授業作りをする。</li> </ul>
二年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親切や思いやりの心が育ってきているが、他者への関心がまだ低いことに課題がある。</li> <li>・学習したことを自分のこととして考え、生活の中で生かしていくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童の発言を促したり、ペアやグループでの話し合いをしたりして考えを広げ、多様な意見を認めていく必要がある。</li> <li>・児童にとって身近な資料や説話を工夫し、実践力を身に付けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相互の話し合いの視点を明確にし、話し合いしやすいようにする。また、自分の考えを発表しやすい学級づくりをし、友達との対話を通して自分の考えを広げられるようにする。</li> <li>・自身の日常の体験を想起させながら学習に取り組ませる。また、日常の様々な場面において、具体的な指導を積み重ねる。</li> <li>・役割演技や動作化を学習内で用いることで、登場人物の思いを考えられるよう指導する。</li> </ul>
三年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の立場に立って心情を考えたり、理解したりすることに課題がある。</li> <li>・自分の考えを基に、気持ちを伝え合ったり、話を広げたり深めたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材を基に、多様な形式のものを用いて指導したり、動作化や役割演技など、表現活動の工夫が必要である。</li> <li>・中心発問から考えた自分の意見を基に、多様な意見や考えを教師が引き出す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもたせる教材提示の工夫や伝記・実話・物語・詩など、教材と並行した多様な読み物を合わせて指導する。また、動作化や役割演技などを通して、登場人物と自分との関わりで理解したり、自己を見つめたりできるような指導する。</li> <li>・授業の流れの中に、考えをまとめ・表現する時間を確保する。(ワークシート) 机間指導の際に教師が補助発問をしたり、児童と対話し、考えを引き出したりする。</li> <li>・書くことや伝えることを苦手になっている児童は、友達の考えを聞くことも学習活動であることを伝えていく。</li> <li>・児童の振り返りを教師が見取り、道徳的価値に近い児童の意見を全体で共有し、価値の涵養を図っていく。また、教師の説話では、実生活や実社会と結びつく話題を取り上げ、道徳的価値を身近に感じられるようにする。</li> </ul>
四年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事を多面的・多角的に考え、自分なりに深めていくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の多様な考えを全体で共有しながら、自己の考えを深める授業展開をすることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の多様な考えや感じ方を板書し、たくさん接する機会を多く作る。多面的・多角的な考えから感じたことをワークシートに書くようにし、道徳的な価値に迫れるよう自分の考えをさらに深められるようにする。</li> </ul>
五年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値について、他者の考えを受け止めながら、自分の考えを深めることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値について自分事として考えたり、他者の考えを受け止めたりすることで、自己の特徴を知り、深く見つめられるようにすることが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたいような発問を工夫し、ワークシートを活用して自らの考えをもち、表現できるようにする。</li> <li>・ペアや小グループでの意見交流をし、自分の考えを振り返る場をもつことで、生き方についての考えを広めたり深めたりできるようにする。</li> </ul>

<p>六年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよくあろうとする気持ちはあるが、そのためにどうしたらいいのかと深く考える経験は少ない。</li> <li>・道徳的実践力の育成に不十分な点が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの思いや考えを投影できる教材と出合わせる大切である。</li> <li>・友だちの考えに共感したり比較したりすることを通して、自分と違う思いも理解できるようすることが大切である。</li> <li>・教材で考えた事を、自らの生活の中でも生かしていこうとする気持ちを高めていくことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に教材の内容が理解できるよう、適切な資料提示や細かな補助発問に心がける。</li> <li>・自らの思いを自由に発言できる雰囲気づくりや、友達の見解からも素直に学ぼうとする態度の育成に努める。</li> <li>・1時間毎の授業で感じたり学んだりしたことを、毎回ワークシートに書くことで自分の考えや思いを整理する。またファイリングすることで自分の考えや思いの変容にも気付けるようにする。</li> </ul>
-----------	--	---	--